

令和 4 年度 あい愛バス年間利用実績の検証と考察

●全般

- 令和 2 年 10 月のダイヤ改正（まちなかぐるっと線に西回り区間新設、3 公園連絡線新設、地域線の長かった正午過ぎの運行空白時間帯を改善など）による利便性向上の効果が定着し、全路線において利用が高まっている。
- 令和 4 年 8 月のダイヤ改正（さとやま線及びほたる線の「中部国際医療センター」バス停留所新設、ほたる線の「みのかも健康の森園内」バス停留所廃止、あまちの森・しょうよう線、フルーツ山之上線及び古井駅—可児川駅の線乗り継ぎやすさ改善のためのダイヤ見直し）による利便性向上の効果により、利用が高まっている。
- 令和 4 年度中に実施した各種利用促進対策（市内 3 団体への出前講座、あい愛バスに親しむ日実施、ワクチン接種利用無料回数券配布、市民まつりでの PR、おしゃべり喫茶など）により、利用への関心を高めたことや動機付けをしたことが効果となり、利用が高まっている。

●路線関連（資料 4-2 参照）

- 「古井駅—可児川駅線」は、広域路線バスとして、可児市と美濃加茂市、また、市内の 3 高校を結ぶ路線として、主に朝の通学に非常に多くの学生が利用するなど、前年度と同様に、最も利用される路線（R4 実績：22, 330 人／年、R3 実績：20, 912 人／年）となっている。
- 「あまちの森・しょうよう線」は、沿線地域の人口の多さや、生活路線として、主に通勤、通学、買物などに利用する方が多く、前年度と同様に、2 番目に多く利用される路線（R4 実績：19, 148 人／年、R3 実績：18, 162 人／年）となっている。
- 「まちなかぐるっと線」は、主に商業施設や公共施設へ行くために利用されており、3 番目に多く利用される路線（R4 実績：18, 361 人／年、R3 実績：16, 423 人／年）となっている。

●バス停利用状況関連（資料 4-2 参照）

- 利用の多い少ないはあるが、全バス停において、乗車または降車があり、適切な配置である。なお、利用がわずかなバス停もあるが、運行経路上、通過する地点への配置であるため、現状としては、廃止する必要はない。
- 乗降者数の多いバス停の上位 10 ヶ所は、以下のとおりとなっている。

- 1 位 「美濃太田駅北口」 乗降者数 63, 873 人
- 2 位 「美濃太田駅南口」 乗降者数 31, 578 人
- 3 位 「美濃加茂高校」 乗降者数 11, 828 人
- 4 位 「駅北商業団地」 乗降者数 10, 192 人
- 5 位 「中部国際医療センター」 乗降者数 8, 387 人

- 6位 「MEGA ドン・キホーテ UNY 美濃加茂店」 乗降者数 5,991 人
- 7位 「総合福祉会館」 乗降者数 5,175 人
- 8位 「ぎふ清流里山公園」 乗降者数 3,806 人
- 9位 「美濃加茂高校グラウンド」 乗降者数 3,464 人
- 10位 「八坂」 乗降者数 3,434 人

乗り換えの拠点である「駅」が最も利用されている他、通学や買物で利用されるバス停の利用が上位となっている。また、中部国際医療センターへの通院で利用される方が大幅に増加している。

- 「美濃太田駅(北口及び南口)」バス停は、乗降者数が最も多く(R元年度比:130.45%、22,280人増加)、全体利用の約37.75%を占め、各種公共交通への乗り換えの拠点として、重要な役割を果たしている。
- 「名鉄可児川駅」「古井駅」バス停の利用も多く(2バス停合計でR元年度比:131.82%、1,207人増加)、通勤・通学のための拠点として、重要な役割を果たしている。R3年度比では「古井駅」の利用が増加したのに対して、「名鉄可児川駅」の利用者が減少している。
- 「美濃加茂高校」「美濃加茂高校グラウンド」バス停の他「加茂高校北」「加茂農林高校」「加茂高校」バス停は、多くの学生に利用され、全体的に利用が増えており(5バス停合計でR元年度比:126.63%、3,779人増加)、通学に有効的に利用される拠点として、より定着してきている。
- 「駅北商業団地」「MEGA ドン・キホーテ UNY 美濃加茂店」「八坂」「食品スーパーアルビス」「オークワ坂祝店」バス停は、コロナ禍であっても利用が多く(5バス停合計でR元年度比:141.20%、7,363人増加)、市民生活に必要な買物の拠点として利用されている。
- 「ぎふ清流里山公園」バス停は、コロナ禍による外出自粛やイベント中止により、R3年度までは利用が減っていましたが回復傾向にあり(R元年度比:136.56%、1,019人増加)、今後のイベント開催に期待するとともに、利用を促す取組に努める必要がある。
- 「総合福祉会館」バス停は、これまで、バス停全体の利用順位の中で10位以内となるなど多くの方に利用されてきたが、コロナ禍による休館や施設の利用制限により、令和2年度以降は、利用が減っている(R元年度比:88.10%、699人減少)。施設が日常的に利用可能となり、利用も回復傾向にあるが、状況把握や開館情報の発信に努める必要がある。
- 令和4年1月のダイヤ改正により新設した2つのバス停は、R4年3月末までの乗降者数が、「中部国際医療センター」では、413人、「五徳」バス停では、103人となっていました。R4年度中の乗降者数が、「中部国際医療センター」では、8,387人、「五徳」バス停では、248人となっており、令和4年8月のダイヤ改正による利便性向上の効果が大きく表れている。

●ダイヤ関連

○路線全体の便ごとの利用状況は、**2便の利用が最も多く、次に1便、3便の順**に多くなっており、主に**早朝の外出によく利用**されている。

○目的地別では、以下のような利用となっている。

①「まちなかぐるっと線」

- ・ **1便**（概ね午前7時30分～午前8時15分の運行）は、「弥生」バス停での降車に次いで「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が多く、美濃太田駅（以下「駅」とする。）駅周辺への通勤や、美濃太田駅から鉄道などに乗り換え、主に**通勤や通学のために利用**されている。
- ・ **2便**（概ね午前8時40分～午前10時の運行）は、主に「MEGA ドン・キホーテ UNY 美濃加茂店」の他、商業施設に設置されたバス停での降車が最も多く、沿線からは直接、また、他のあい愛バスからは乗り継いで、主に**買物に行くために利用**されている。
- ・ **3便**（概ね午前10時30分～午前11時30分の運行）は、「総合福祉会館」バス停での降車が最も多く、次いで「美濃加茂市役所」での降車が多い。主に**公共施設に行くために利用**されている。

②「3公園連絡線」

- ・ **1便**（概ね午前7時30分～午前8時30分の運行）は、「中部国際医療センター」バス停での降車が最も多く、主に**通院に利用**されている。
- ・ **2便**（概ね午前9時～午前10時30分の運行）も、「中部国際医療センター」バス停での降車が最も多く、次いで「ぎふ清流里山公園」での降車が多い。この時間帯は**通院や、公園へ行くために利用**されている。
- ・ **3便**（概ね午前10時50～午後12時10分の運行）は、「ぎふ清流里山公園」バス停での降車が最も多く、主に**公園へ行くために利用**されている。

③「あまちの森・しょうよう線」

- ・ **1便**（概ね午前6時～午前7時30分の運行）は、主に「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**通勤や通学するために利用**されている。
- ・ **2便**（概ね午前7時40分～午前9時の運行）も、主に「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、**通勤や通学の他、買物や通院するために利用**されている。
- ・ **3便**（概ね午前9時20分～午前10時40分の運行）も、主に「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が最も多く、次いで「オークワ坂祝店」バス停での降車が多くなっている。鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**買物や通院するために利用**されている。

④「むくの木・そうきち線」

- ・ **1便**（概ね午前6時～午前7時30分の運行）は、主に「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**通勤や通**

学するために利用されている。

- ・ 2 便（概ね午前 7 時 40 分～午前 9 時の運行）も、主に「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、**通勤や通学**の他、**買物や通院するために利用**されている。
- ・ 3 便（概ね午前 9 時 20 分～午前 10 時 40 分の運行）も、主に「美濃太田駅（南口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**買物や通院するために利用**されている。

⑤「フルーツ山之上線」

- ・ 1 便（概ね午前 6 時～午前 7 時 30 分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**通勤や通学するために利用**されている。
- ・ 2 便（概ね午前 7 時 40 分～午前 9 時の運行）は、「美濃加茂高校グラウンド」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスから乗り継ぎ、**通学するために利用**されている。
- ・ 3 便（概ね午前 9 時 20 分～午前 10 時 40 分の運行）は、「駅北商業団地」バス停での降車が最も多く、山之上方面からは直接、また、美濃太田駅方面からは、鉄道や他のあい愛バスから乗り換え、**買物に行くために利用**されている。

⑥「フルーツ蜂屋線」

- ・ 1 便（概ね午前 6 時～午前 7 時 30 分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**通勤や通学するために利用**されている。
- ・ 2 便（概ね午前 7 時 40 分～午前 9 時の運行）も、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、**通勤や通学の他、買物や通院するために利用**されている。
- ・ 3 便（概ね午前 9 時 20 分～午前 10 時 40 分の運行）も、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**買物や通院するために利用**されている。

⑦「さとやま線」

- ・ 1 便（概ね午前 6 時～午前 7 時 30 分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、次いで「正眼短期大学」バス停での降が多い。駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、**通勤や通学するために利用**されている。
- ・ 2 便（概ね午前 7 時 40 分～午前 9 時の運行）も、「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、次いで「のぞみの丘ホスピタル」バス停での降が多い。駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、**通勤や通学のほか通院のためにも利用**されている。
- ・ 3 便（概ね午前 9 時 20 分～午前 10 時 40 分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、次いで「駅北商業団地」や「中部国際医療センター」バス停での降が多い。駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**買**

物や通院するために利用されている。

⑧「ほたる線」

- ・1便（概ね午前6時～午前7時30分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**通勤や通学するために利用**されている。
- ・2便（概ね午前7時40分～午前9時の運行）も、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、**通勤や通学その他、買物や通院するために利用**されている。
- ・3便（概ね午前9時20分～午前10時40分の運行）も、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、次いで「駅北商業団地」や「中部国際医療センター」バス停での降車も多い。駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**買物や通院するために利用**されている。

⑨「古井駅－可児川駅線」

- ・1便（概ね午前7時～午前8時30分の運行）は、主に「美濃加茂高校」の他、通学用に設置したバス停での降車が最も多く、市外の名鉄可児川駅方面からは直接、また、駅で鉄道や他のあい愛バスから乗り継ぎ、主に**通学するために利用**されている。
 - ・2便（概ね午前8時30分～午前9時45分の運行）は、主に「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、**通勤その他、買物や通院するために利用**されている。また、市外の名鉄可児川駅方面からも、**市内へ訪れるために、この路線で当駅まで利用**されている。
 - ・3便（概ね午前10時分～午前10時40分の運行）は、「美濃太田駅（北口）」バス停での降車が最も多く、駅で鉄道や他のあい愛バスに乗り換え、主に**買物や通院するために利用**されている。
- 全9路線の**最終便**（概ね午後6時10分～午後7時30分、※3公園連絡線は、午後8時20分～午後9時10分の運行）となる8便の**利用は、全体で一番低い**（古井駅－可児川駅線の9便を除く。）が、**令和元年度と比べ**、1日あたりの全路線平均利用者が、1.59人から2.04人と**1.3倍の増加**となっており、**利用がより定着**してきている。

●利用種別関連

- 利用種別のうち、「有料」での利用が、**69.82%**、「無料」での利用が、**30.18%**となっており、この割合は、令和元年度以降ほぼ同じで、「**無料**」で利用できる「**中学生以下**」「**障がい者やその介護者**」「**65歳以上の運転免許証自主返納者**」の皆さんの**利用も定着**している。
- 「**現金**」での利用が最も多く、全体の**41.87%**となっている。次に「**無料（障がい者・介護者）**」での利用が、**16.35%**、続いて「**定期券**」での利用が、**15.60%**の順になっている。定期券での利用も多いことから、**日常的な外出**（通勤、通学、買物、

通院など) に利用されている。

○幼児を除き、路線バスを「無料」で利用できる制度は、他自治体でも少なく、対象となる「中学生以下」「障がい者やその介護者」「65歳以上の運転免許証自主返納者」に定着するとともに、特に「免許返納者」に対しては、市や警察による制度のPRにより、利用が次第に増えている。

・「障がい者やその介護者」は、増加傾向（R元年度比：132.98%、5,126人増加）で、利用がさらに定着している。

・「65歳以上の運転免許証自主返納者」は、増加傾向（R元年度比：141.86%、1,575人増加）で、利用がさらに定着している。

・「中学生以下」は、減少（R元年度比：80.75%、1,953人減少）となっており、令和2年度まで、外国籍児童が古井小学校に併設された日本語教室への通学に利用していたものが、令和3年度から通学専用送迎バスの運行に伴い、そちらの利用へ移行したことにより、定期利用者が減少している。令和4年度は、人数が多く、通学専用送迎バスの運行で対応できない児童の利用が増えたため、令和3年度に比べると増加（R3年度比：115.02%、1,070人増加）している。

○美濃加茂市の運転免許証自主返納者は、平成29年度以降、毎年150人前後となっており、令和4年度末では、累計で902人となり、今後も自主返納者が増加することが見込まれるため、一層、あい愛バスの必要性が高まる。このため、利用PRも兼ねた、返納前から乗車体験していただくなど、バス利用への不安や苦手意識を和らげるよう努めることが重要となる。

●利用者などの声

○アンケート（R4.10月実施）結果抜粋

・美濃太田駅発着の時刻をJRや長良川鉄道のダイヤに合わせてほしい

・遅い時間の本数を増やしてほしい

・早い時間を増発してほしい

・通勤、通学時間の本数を増やしてほしい

・利用者が少ない路線は、事前予約乗合オンデマンドがいいのでは

・遅れることがほとんどなので、それを前提としたダイヤにすべき

・朝や夕方になると遅延などあるので朝や夕方は、渋滞などを考慮したダイヤを組んでほしい

・夜のダイヤを増やしてほしい

・8便以降も追加してほしい

・運賃を高くしても良いので、本数をもっと増やしてほしい

・ICカード決済など、キャッシュレス決済の種類を増やしてほしい

・イベントなどでバスに乗れる機会を増やしてほしい（試乗会）

・バスの混雑状況が分かるようにしてほしい

※増便、遅延によるダイヤの見直し、サービスの向上などを求める声が多い。

●総括

○あい愛バスは、年々利用が高まる中、特に早朝の日常的な外出（通勤、通学、買物、通院など）での利用が定着してきており、午前の利用が、午後からの利用を上回り、全体の約 60%となっている。

これは、通勤や通学、または、通院において求められる、始業や診療開始時間に間に合う公共交通であること、特に通学可能であることに対して、これを実現するとともに、継続的に利用しやすいダイヤへの見直しや環境整備（利用者増加による定員超過の事態に対応したバスの大型化、予備車追走など）を進めてきたことで、安心して利用できる環境が整ってきたこと、また、利便性向上につれ、もともと利用していた方がより利用し始めたことで、さらに多くの方が利用し始めたことが大きな要因である。

また、平成 29 年度の大幅な利便性向上（1 日 8 便、全地区毎日運行、利用しやすい料金設定、無料利用制度新設など）に加え、これまで、毎年、ダイヤや経路などの運行の見直し（利用しやすいダイヤへの見直し、定期券料金の引き下げ、新たな路線の新設、経由地の追加など）を継続的に実施し、可能な限り迅速にニーズや課題へ対応してきたことや、先進的なシステム（バスロケーションシステム、キャッシュレス決済、モバイルチケットなど）や EV バスの導入により、さらにバス利用への関心や利便性を高めることにも努めており、実績やニーズ、課題を踏まえ、利便性向上を図ってきたことも要因である。

令和 4 年度は、年間利用者数の計画目標 112,000 人に対し、126,437 人（目標達成率 112%）の利用があり、これまでの取り組みの成果が表れ目標を上回る結果となった。

今後、コロナ禍も落ち着きさらなる利用者の増加が期待できるが、現状から、今以上の勢いで利用者が伸び続けることは厳しいと推測されるため、現状のサービスや利用者を維持しつつ、ニーズや課題を踏まえ、費用対効果にも配慮し、さらなる利用促進や利便性向上（新たなターゲット獲得に向けたあい愛バス試乗やイベント開催、新たな公共交通システムの模索など）に努め、令和 7 年度の計画目標である年間利用者 124,000 人の達成を目指したい。

R5. 5. 16 作成